

3 期目の SSH 校としての研究開発課題を「未来世代への提言を目指し、女性の科学技術人材を育成するプログラムの開発」として、創造サイエンスコース(CS コース)のみならず、創造グローバルコース(CG コース)も対象に取組を推進しています。

プログラム1 「知」の高度化による科学的素養の育成

プログラム2 教科横断型カリキュラムの開発

プログラム3 グローバル科学技術人材の育成



令和2年度 SSH成果発表会 実施

今年度のSSH成果発表会が12月19日(土)に開かれました。今年度は、新型コロナウイルス感染対策の観点から、一般には公開せず、運営指導委員の先生方や校内の教員、生徒に対する発表となり、場所も例年の大学キャンパスではなく、中高のキャンパスでの実施となりました。午前には中学生、午後には高校生がAV1教室でプレゼンテーション形式の発表を行い、リモートでそれぞれ教室から視聴しました。また、その合間にはポスターセッション形式での発表が行われ、多くの生徒が発表だけでなく他のグループのポスターを見学して発表を聞き、質問しました。午後に開かれた卒業生の講演とパネルディスカッションでは、卒業生から直接話を聞き、将来について考える機会にもなりました。今回の発表会では、CGコースの生徒もプレゼンテーションで3つ、ポスター発表で8つと計11グループ参加しており、コースを超えてそれぞれの研究に驚いたり、興味をもったりと互いに刺激を受けました。また、例年以上に教員の参加も多く、生徒たちも運営指導委員の先生や教員からアドバイスをもらい、今後の活動に意欲を燃やす機会となりました。



グループ探究の集大成 ~高2 CG MSタイム

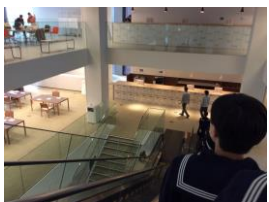
◎学年内でポスターセッション大会

今年度のCGコースの高校2年は、MSタイムの時間を中心に、グループでの探究活動に取り組んできました。このグループは、クラスの壁をなくし、文系理系を問わず研究テーマの近い人で集まったものです。これまで、テーマ設定から論文を読むことなどグループで協力して進め、最後はポスター形式にまとめました。11月28日と12月5日のMSタイムに、記念体育館のアリーナにおいて、46枚のポスターを並べた発表会を行いました。他のグループ発表の見学と自分たちの発表の方を経験し、生徒たちはよりよい発表や、より深く探究する方法など、多くのことを学んだようです。選出されたグループは、その後SSH成果発表会でもポスター発表を行いました。



◎MSツアー 次年度に向けて、さまざまな現場を見学

当初は早い時期に計画していましたが、新型コロナウイルスの影響により、なかなか行き先や日程が定まらず、12月14日(月)の午後ようやく実現することができました。食糧分野の生徒はグリコ株式会社 グリコピア神戸工場(神戸市)を、エネルギー・先端技術分野の生徒は国立研究開発法人 産業技術総合研究所(大阪府池田市)を、環境分野の生徒は神戸市資源リサイクルセンターとこうべ環境未来館を、住み続けられるまちづくり分野の生徒は武庫川女子大学経営学部(西宮市)を訪れ、それぞれに現地の見学とともに企業や研究所の取り組みや研究などの説明を聞きました。ライフサイエンス分野の生徒は、リモートで沢井製薬の取り組みや工場紹介の講義を受けました。それぞれに実社会で行われている様々な対策や活動、研究などに触れることができ、来年度の探究活動に向けての意欲をさらに高めることができました。



ロボットセミナー発表会で入賞! ~高2

12月25日(金)に尼崎商工会議所で行われた、高校生ロボットセミナー発表会(ロボットアイデア甲子園兵庫県大会)において、高校2年の木村優日子さんが「ネイルロボット」で兵庫県阪神南県民センター長賞を、阪井優菜さんが「高所作業ロボット」で兵庫県阪神北県民局長賞を受賞しました。2人は、8月に実施されたロボット見学会を経て、独自に調査・研究してきました。今回、安全で住みよい未来に役立つロボットのアイデアとして、裏付けとなるデータや具体的な数値を提示したプレゼンテーションをし、評価を受けました。



WWL 課題研究交流発表会 ~高2 CG

高校1年2年のCGコースの生徒3名が12月25日(金)にオンラインで行われたWWL(ワールド・ワイド・ラーニング)課題研究交流発表会に参加しました。これは、課題研究や探究活動に取り組んでいる高校生が互いに発表し、学び合う場としてもうけられているものです。高2の生徒は、「未来のエコサイクルで新しい脱プラを」というタイトルでポスター発表しました。さらに高1の2名は他校の生徒の発表に触れ、グループディスカッションにも積極的に参加しました。

数学オリンピック出場 ~高1

高校1年の5名(CSコース3名、CGコース2名)が、1月11日(月)に開かれた数学オリンピックに出場しました。今年度は、オンラインによる実施で、送られてきた12問の問題を2時間半で解答し、送信するという形で行われました。残念ながら予選突破とはなりませんが、生徒たちは、難問に頭を悩ませながらも、果敢に挑戦していました。